

科目番号	51003	分類	履修者	高度実践看護コース	学年		
科目名	クリティカル疾病特論 (Pathology of critically ill patients)				1		
					配当セスター		
					前期		
担当著	草間朋子 他21名	区分	必修	単位	2	時間数	60
授業の概要および目標						学位授与の方針との関連	
【概要】 クリティカル領域で頻度の高い疾患について、病態的な基礎知識を理解する。高度実践看護師としての実践に必要な疾病を理解することにより、患者に起こっている症状を臨床推論し、診断を確定していく能力につながる知識を修得する。						○	1. 患者・患者家族のニーズに自律的に対応できる実践能力
【目標】 1. クリティカル領域における頻度の高い疾病の成り立ち、病態を理解する。 2. 患者に起こっている症状を臨床推論し、診断につながる疾病の理解をする。						○	2. 患者の擁護者として活動できる倫理的意思決定能力
						○	3. 看護・看護学の発展・進化に寄与し社会・時代のニーズに対応した創造的な研究・開発能力
						○	4. 多職種と連携・協働して行われるチーム医療の中で看護職としてのリーダーシップを発揮できる能力
授業計画							
回	内容						担当教員
(授業は順不同)	<臨床病理学総論・臨床生理学総論>						草間 他21名
第1回	I. 病態生理の理解：講義						
第2回	(1) 病態生理と臨床症状						
第3回	(2) 水と電解質の病態生理						
第4回	・血液透析器及び血液透析濾過器のメカニズムと種類、構造						
第5回	(3) 血液は何をしているのか						
第6回	(4) 心臓・血管の動きと心音						
第7回	(5) がんの生物学						
第8回	II. 病態生理の理解：演習						
第9回	(1) 肺の生理からみた呼吸管理						
第10回	・気道確保に関する局所解剖						
第11回	・経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整に関する病態生理						
第12回	・経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整に関するフィジカルアセスメント						
第13回	(2) 中枢神経異常の局在診断						
第14回	(3) 痛みと鎮痛のメカニズム						
第15回	・硬膜外麻酔を要する主要疾患の病態生理						
第16回	(4) 病理解剖で分かること						
第17回	<臨床病理学各論・臨床生理学各論>						
第18回	III. 各疾患における病態、診断するために必要な検査、治療の理解						
第19回	(1) 心血管の問題						
	・心房細動・心房粗動の管理、頻脈と除脈の管理						
	・急性冠症候群						
	・心不全の管理、高血圧緊急症						
	(2) 腎に関する問題						
	・急性腎不全						
	・手術室およびICUにおける輸液療法						
	・アシドーシス患者への対応						
	・ナトリウム異常						
	・カリウム異常						
	・電解質 (Na, K, Cl) 輸液療法、糖質輸液、利尿剤投与調整						
	・透析を受ける患者の問題						
	・一般病棟における輸液療法						
	・血液透析及び血液透析濾過の方法の選択と適応						
	(3) 消化器に関する問題						
	・急性腹症・虫垂炎						
	・肝疾患（とくに肝硬変患者の管理）						
	・上部消化管出血						
	・急性膵炎						
	・イレウス・憩室炎						

第20回 第21・22回	(4) 呼吸器に関する問題 ・結核患者の診療と管理 ・喘息の管理 ・COPD（人工呼吸管理含む） ・肺炎、肺塞栓 ・経口又は経鼻気管挿管の適応と禁忌 ・経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの種類と適応 ・経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブによる呼吸管理
第23回 第24回	(5) 神経に関する問題 ・脳梗塞急性期の管理 ・くも膜下出血・脳出血急性期の管理
第25回 第26回	(6) 精神に関する問題 ・不穏・錯乱状態・せん妄 ・薬物過剰使用 ・アルコール関連問題 ・自殺傾向のある患者の管理 ・抗精神薬、抗不安薬、抗けいれん剤 ・精神・神経系の局所解剖 ・神経学的主要症候 ・精神医学的主要症候 ・主要な神経疾患と病態生理 ・主要な精神疾患と病態生理 ・けいれんの原因・病態生理 ・けいれんの症状・診断 ・抗けいれん剤の種類と臨床薬理 ・各種抗けいれん剤の適応と使用方法 ・各種抗けいれん剤の副作用 ・統合失調症の原因・病態生理 ・統合失調症の症状・診断 ・抗精神病薬の種類と臨床薬理 ・各種抗精神病薬の適応と使用方法 ・各種抗精神病薬の副作用 ・不安障害の原因・病態生理 ・不安障害の症状・診断 ・抗不安薬の種類と臨床薬理 ・各種抗不安薬の適応と使用方法 ・各種抗不安薬の副作用
第27回	(7) 内分泌・代謝に関する問題 ・糖尿病性昏睡の管理 ・病態に応じたインスリン製剤の調整の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む)
第28回	(8) 感染症 ・院内の菌血症 ・敗血症
第29回	・インフルエンザ ・予防接種（感染症法を含む） 予防接種実施のための判断 年代別・リスク別に必要とされる予防接種
第30回	・耐性菌に対する対応 ・クロストリジウム・デフィシル感染症の管理 ・抗生剤の種類と臨床薬理 ・各種抗生剤の適応と使用方法 ・各種抗生剤の副作用 ・感染徴候がある者に対し使用するその他の薬剤の種類と臨床薬理 ・感染徴候がある者に対し使用するその他の各種薬剤の適応と使用方法 ・感染徴候がある者に対し使用するその他の各種薬剤の副作用
事前・事後 学習	事前学習：当日の課題に関し参考図書の内容を予習し理解して授業に参加する。 事後学習：授業の内容を配布資料と参考図書等で復習する。 単位と時間数に応じた学習時間（学生便覧参照）を参考に組み込むこと。
評価の方法	筆記試験（80%）と病態生理の理解（演習）に関する課題レポート（20%）で評価する。この他に、観察評価を行う。フィードバックは適宜行う。
参考図書 ・資料等	◎1) 松尾 理監訳：カラー図解 症状の基礎からわかる病態生理, ケイ・エム・サイエンス・インターナショナル 2) シルビア・C・マッキーン他：病院勤務医の技術, 日経BP社 3) 病気がみえる Vol.4 呼吸器 第1版, ケイ・エム・サイエンス・インターナショナル ◎お授業の必携図書ですので、購入していただきます。
備考	オフィスアワーについては、学生便覧を参照し、教員と日程調整をする。